

三井住友海上火災保険株式会社

広報部 〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台 3-9

TEL: 03-3259-3111(代表)

www.ms-ins.com

2025年11月28日

＜公益財団法人三井住友海上福祉財団＞
「設立50周年記念特別賞」、2025年度「三井住友海上福祉財団賞」
および「研究助成」を決定

MS&ADインシュアランスグループの公益財団法人三井住友海上福祉財団（理事長：柄澤 康喜）は、9月に設立50周年を迎えたことを記念し、本日開催する贈呈式で、「設立50周年記念特別賞」を4名に贈呈します。また、2025年度の優れた著作・論文の執筆者に対する表彰として「三井住友海上福祉財団賞」を1名に、「三井住友海上福祉財団奨励賞」を3名に贈呈します。さらに、交通事故・各種災害の防止等分野と高齢者福祉分野の2分野において、今後の社会への貢献が期待できる研究35件に対して助成を行います。

今年度は、国内で43件（5,428万円）、海外（タイ、台湾）で8件（550万円）の助成・贈呈を決定しました。今年度確定したものを含めた当財団設立以来の助成・贈呈累計は、2,430件、27億931万円となります。

1. 2025年度贈呈式・設立50周年記念式典の概要

開催日時：2025年11月28日（金）14:00～18:00

開催場所：住友会館（東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー42階）

出席者：受賞者、研究助成対象者、内閣府、当財団選考委員・役員、友好団体等 合計約70名

記念講演：＜交通事故・各種災害の防止等分野＞

「Virtual Co-Driver—AIが拓く、人に寄り添う運転支援技術」

東京大学大学院工学系研究科 電気系工学専攻 特任教授 亀崎 允啓 氏

「地域連携を通して社会の創り手育成を目指す安全教育プログラムの開発

—義務教育段階における授業実践を事例に—

愛媛大学教育学部 准教授 井上 昌善 氏

＜高齢者福祉分野＞

「長期観察高齢者住民コホートをを用いた運動器疾患の実態の解明」

東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター ロコモ予防学講座

特任教授 吉村 典子 氏

「地域住民における身体的・認知的フレイル」

広島大学大学院医系科学研究科 健康創成推進分野 准教授 陳 三妹 氏

「高齢者の安心安全な薬物療法に向けて：地域在住高齢者の抗コリン薬リスクスケールを用いた抗コリン薬負荷量とフレイル・サルコペニア発症との関連」

東京大学 未来ビジョン研究センター 高齢社会総合研究機構

特任講師 田中 友規 氏

2. 主な受賞テーマ・研究助成

(1) 設立50周年記念特別賞*

分野	受賞者	助成を受けた年度と研究課題
交通事故・ 各種災害 の防止等	東京大学 大学院工学系研究科 電気系工学専攻 特任教授 亀崎 允啓 氏	＜2020年度＞ドライバー・コンピテンシー・ アセスメント・システム（D-CAS）の実現に向け て：ドライバーの状況認識推定システムの開発
	愛媛大学教育学部 准教授 井上 昌善 氏	＜2019年度＞地域の安全を担う市民育成を 目指す教育プログラムの開発—「警ら箱」の教材 化を事例として—

分野	受賞者	助成を受けた年度と研究課題
高齢者福祉	東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター ロコモ 予防学講座 特任教授 吉村 典子 氏	<2016年度>長期観察高齢者住民コホートを 用いたフレイルとロコモの実態と予防に 関する研究
	広島大学大学院医系科学研究科 健康創成推進分野 准教授 陳 三妹 氏	<2015年度>地域在住高齢者における認知 機能障害と身体的フレイルの相互作用が要介護 認定に与える影響についての検討:4年間の追跡 研究 <2021年度>地域在住高齢者における認知的 フレイルと介護給付費および医療費との関連: 8年間の前向き研究

※ 設立50周年記念特別賞は、2013～2022年度に当財団から研究助成を受け、その後さらに研究を進展させ、優れた成果を収めた研究者を表彰するものです。

(2) 三井住友海上福祉財団賞

分野	賞	著作・論文名および受賞者
交通事故・ 各種災害 の防止等	財団奨励賞	<著作>災害復興法学Ⅲ 【銀座パートナーズ法律事務所 代表弁護士・気象予報士・博士(法学) 岡本 正 氏】
	財団奨励賞	<論文>Impact of a national initiative to provide civilian cardiopulmonary resuscitation training courses on the rates of bystander intervention by citizens and survival after out-of- hospital cardiac arrest. (市民に対する心肺蘇生訓練を提供する全国的な取り組みが、市民に よる心肺蘇生行為実施率および院外心停止後の生存率に及ぼす影響に ついて) 【虎の門病院 循環器センター内科 医長 山口 徹雄 氏】
高齢者福祉	財団賞	<論文>日本版リスクスケールを用いた抗コリン負荷量と地域在住 高齢者のフレイル・サルコペニア発症との関連:柏コホート研究 【東京大学 未来ビジョン研究センター 高齢社会総合研究機構 特任講師 田中 友規 氏】
	財団奨励賞	<論文>Community-level group sports participation and all- cause, cardiovascular disease, and cancer mortality: a 7-year longitudinal study (地域レベルの運動・スポーツグループ参加割合と全死因・循環器 疾患・がん死亡:7年間の縦断研究) 【筑波大学体育系 助教 辻 大士 氏】

(3) 研究助成

分野	助成例(研究課題および代表研究者)
交通事故・ 各種災害 の防止等 (12件)	路面状況や交通環境が電動キックボード利用者の視認挙動に及ぼす影響 【東海大学建築都市学部 准教授 鈴木 美緒 氏】
高齢者福祉 (23件)	味覚想起訓練による加齢性食欲不振・サルコペニアの克服 【東北大学大学院医学系研究科臨床障害学分野 教授 海老原 覚 氏】

以上

公益財団法人三井住友海上福祉財団の概要

事務所	〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9
沿革	1975年 9月1日：住友海上福祉財団として事業開始 2001年10月1日：三井住友海上福祉財団に改称 2009年12月1日：新公益法人制度のもと、公益財団法人へ移行
主務官庁	内閣府
理事長	柄澤 康喜
基本財産	20億324万円（2025年3月31日現在）
主な経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・1975年9月に住友海上社の創業80周年を記念して設立されました。 ・財団設立以来、交通事故・各種災害の防止等と高齢者福祉の両分野への助成累計は2,430件、27億391万円となります。 ・設立当初は、損害保険に関係の深い交通遺児や防災活動で殉職した消防士の遺族等への援護活動が中心でしたが、1980年代からは、交通安全の普及啓発活動への助成に重点を置くようになりました。 ・わが国の高齢化の進展に合わせ、1991年からは高齢者福祉分野へ助成対象を拡大しました。時代の変化に伴って事業領域を広げ、現在は、交通事故・各種災害の防止等と高齢者福祉の両分野の研究助成、著作・論文表彰、普及啓発活動など多岐にわたる活動を行っていますが、最近では研究助成が全助成の約90%を占めています。 ・2007年度から海外における研究者を対象とした研究助成を開始しました。現在の対象地域はタイ、台湾の2つの国・地域で、2025年度は8件、約550万円※を助成します。 ※助成金額は、暫定為替レートで計算しています。